

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600103		
法人名	株式会社 実喜		
事業所名	京塚温泉 グループホーム 笑みの里暖輪		
所在地	群馬県吾妻郡中之条町入山3257		
自己評価作成日	平成31年3月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成31年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京塚温泉の源泉を引いており、常に温泉に入浴でき身体も心も和らぎます。自然も豊かであり、春から秋にかけて庭先の草花と触れ合ったり、畑の野菜を収穫し季節を感じています。また地域の協力病院と連携し、月に1回の受診・必要に応じた医療を受けることができます。そして入居者様一人一人にあった介護ができるように、スタッフ一同連携・相談をし入居者様の状態を把握できるように心がけています。入居者様が地域の一員であることを忘れないよう、今後も、納涼祭や地域合同文化祭に参加したり、地域の歌や踊りの慰問ボランティアの方に来所してもらうようにいたします。

職員は利用者にゆとりを持って接することで、利用者のその人らしさを尊重することができるという考えを運営者が持ち、その考えを実践するために、職員から意見や提案をアンケートとして投函してもらう意見箱を設置している。毎月の会議で運営者から回答があり、利用者のケアや運営に活かされている。利用者の気持ちを優先、尊重する運営者と支援する職員の姿勢がうかがえる。また、地域性を活かして施設に温泉を引いているが、1日中入浴が楽しめる状況にあるばかりでなく、在宅からグループホームに生活の場を移す際、「温泉があるから施設に入る」という入居の意味づけができ、過疎化が進む地域の人から理解を得るための理由の一つになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【その人らしい生活ができる介護】を理念としている。入居者様への支援が統一してできるように、申し送り・カンファレンスなどを行うようにしている。	理念にある、その人らしさとは集団生活の中にあって利用者一人ひとりを個別性を持って支援することで実現され、職員はそのためにゆとりを持って実践に取り組むことを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	雪が降る前は、近隣を散歩し地域の方と話をしたり、納涼祭・文化祭などに参加し交流の場がもてるよう心掛けている。	事業所で納涼祭を催したり、運営者が実行委員として関わっている地域の文化祭に利用者の作品を出展する等、地域との交流の機会を設けている。ボランティアの慰問等も予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所よりの夏祭り開催で地域の皆様と利用者様が触れ合う時間を作り又同地区の文化祭の実行委員に任命され文化祭に手作り作品展示、見学など参加することにより認知症に理解を頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の会場にて皆様に、意見をいただきサービス向上に努めている。	家族、地域住民、六合診療所、役場の福祉課、支所の担当者等の出席の下、隔月毎に開催している。家族の出席は少ないが、案内や議事録を送付し、運営に対する理解を求める努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に施設の利用状況などを相談し、協力関係を築いていくよう心掛けている。	主に運営者が相談や報告等のため六合村福祉課の窓口の担当者と連絡を取り合っている。介護保険の申請代行、認定調査の立会いも家族の希望によりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーマット使用は拘束であることを理解し、家族に同意をとりながら実施している。スタッフの配置状況によって、出入り口を手動にするよう心掛けている。	玄関は自動ドアを手動にする時間帯を作っている。センサーマットは家族の同意を得て使用し、スピーチロックにあたる言葉を正し、代わる言葉を職員間で共有し、利用者への対応に取り組んでいる。	センサーマットの使用については、使用期限を決めて介護計画に盛り込み、モニタリングで使用の可否を判断していくことで、常態化しないよう取り組んではいかがか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で、虐待について理解し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要になった場合、関連施設・町の担当者 と相談し、協力して支援していきたいと考えて いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約の際は、入居者様、その家族に理解し やすいよう説明し、契約内容を十分理解し ていただいてから契約している。解約の際も 同様に、話し合い合意の上解約するようにし ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	苦情申し立ての説明をするよう努めている。 また、入居者様・家族様にはどのような要望 があるのか、会話の中でくみ取れるよう心掛 けている。	家族の面会時に利用者の様子を報告後、 「何か要望はありますか。」と尋ねるようにし ている。利用者・家族と信頼関係を築くことを 日常から心掛け、出された意見や要望は記 録して職員間で共有している	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りなどで情報を交換や相談を し、それを共有できるようにしている。またス タッフから業務改善の提案があれば、話し 合い、より良い運営ができるように心掛けて いる。	運営者に対する意見箱を設け、職員の意見 や提案に対して、毎月開催する全体会議で 回答し、個別ケアの仕方や工夫、業務改善 等に繋げている。意見箱の活用を広げていく 取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	スタッフ個々の状況を把握し、意見を聞きな がら向上心を持って働ける職場環境になる よう努めている。また状況に応じて実績を評 価したうえで昇給を考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	外部の研修や、交流会には参加してもら うように促し、技術・知識・質の向上に向け実 践に繋がるように考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	町や近隣の病院のソーシャルワーカーか ら、情報交換会・交流会の案内を貰い、参加 し交流することで質の向上になるよう努め ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様がいる場合は、事前にスタッフ間で情報を確認している。入居後は空間に慣れるまで言動・表情を観察し安心して生活できるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様・家族様に会い、入居前の生活状況を伺い、何に困っており、何を必要としているかを確認し、それに合ったサービスが提供できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を伺い、それに合ったサービスの提供に努めている。入居後も希望に沿って生活できるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日がマンネリ化しないよう、また苦痛にならないよう嗜好に合った暮らしやすい環境を整え、その人に合った接し方をするように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、生活状況の生活状況の変更や食事摂取の変更などいつでも申し出てもらえるよう声をかけている。また同じ心境に立てよう家族様に寄り添い話しかけやすい環境を作るよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様と馴染みの人や、場所との関係性を理解し支援に努めている。	利用者から要望があれば、馴染みの人からの電話の取次ぎをし、関係性の継続を支援している。また、新聞を読んだり、健康飲料を飲む習慣がある利用者にはそれぞれを用意している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のトラブルが起きないように、入居者様同士の性格の不一致や、言動に日々注意している。また入居者様同士で助け合い、相談しあえる関係が築けるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際には、終了後も相談しやすいよう声掛けをするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様がどのような生活を望んでいるか入居前に確認し、希望に沿った生活ができるようにしている。	アセスメントを基に家族から話を聞き、また利用者からも日常的な会話から意向を把握するよう努め、介護計画に反映させるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴や面会時に聞いた情報を共有しその方らしい生活ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や、受診した時の情報などを記録し、情報を共有して現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様本人・家族・必要関係者と話し合い、意見や要望を聞いた上で本人様にとってより良い生活が送れるように介護計画を作成している。	利用者や家族からの要望を反映した、その人らしい生活ができる介護計画を作成している。介護計画は毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に担当者会議を開き、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や、ADL、受診時の様子など状況把握をスタッフ間で徹底しており、状態の変化などがあれば、話し合い介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が日々過ごす中で生じる様々なニーズに沿えるような柔軟なサービス提供ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を理解したうえで、活用し入居者が穏やかに安心して生活できるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居説明の時に、かかりつけ医の確認を行っている。協力病院の受診であれば職員対応で受診を行うと説明し、入居様・家族様の希望を聞き適切な医療を受けられるよう努めている。	入居時に六合温泉医療センター(内科、歯科)への移行を依頼している。定期受診には職員が対応し、他の専門医へは家族が付添っている。受診結果は運営者が家族に書面で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診した時は、状態把握ノートの記入を徹底し看護職員に伝達し施設内でも的確な看護が提供できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には、入院先の地域連携室と連携をとり、入居中の情報、入院先での情報などを交換し把握し合い入居者様が早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化・終末期には今後起こりうる状態を、本人様・家族様・協力医・地域関係者と話し合い適切な支援ができるようにと考えている。	現在、重度化や終末期に向けた指針を作成している。看取りの事例はあり、協力医や訪問看護師の協力を得て、協力医の診断や家族との相談に基づいて、看取り支援に取り組む方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の対応マニュアルを作成しており、スタッフで共有している。救急車の要請手順を作成し、だれでも対応できるよう掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している小規模多機能と協力し合い避難できるよう訓練している。京塚の公民館に避難できるよう地域と連携している。備蓄に関しては孺恋の施設と話し合い見積もりを出している。	併設している小規模多機能施設と同時に、年2回火災や災害(山崩れ)を想定した防災避難訓練を実施し、避難誘導、避難経路の確認等を行っている。備蓄については、現在検討中である。	緊急時、利用者や職員の命を守るためにも、自主訓練を実施してほしい。また、食料品や排泄用品等の備蓄についても検討を進めてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の人間性を尊重し、声掛け・対応をしている。また個々に過ごす時間を設け、話を聞くなど安心して生活ができるようにしている。	常に利用者の気持ちを優先し、利用者が自ら選択する機会や場面を尊重している。利用者同士、利用者と職員の相性等も考慮し、集団生活にならないよう個別対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが慌てないで余裕を持って行動するよう心掛けることで、入居者様が思っている事・感じている事などを言いやすい環境・人間関係を築けるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様に希望を聞き、希望に沿った生活ができるよう毎日取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時に、美容師に訪問してもらい散髪ができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう、毎日の献立を掲示している。キザミ食の方には献立の説明をするよう心掛けている。お膳を下げるなど入居者様の要望がある際は一緒に片づけをしている。	食事は専門業者のものを提供しているので、外食レク、行事食、伝統食等を提供する機会を作り、普段とは違った食事を楽しんでいる。利用者は、コップや食器を片付ける手伝いをしている。	利用者の食べる量、食材の食べ易さ、おかずが届いているか等、職務として一緒に食事をして、利用者の食事摂取に関心を持つよう努めてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況は毎食観察し、水分摂取状況は夏場や、入居者様の健康状態により観察するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは個別に声掛けをし、行っている。入居者様のADLに合わせ、見守りや軽介助など個々に対応し口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様個々の排泄動作の状態を把握し、その方に合った支援ができるようにしています。また、状態の変化などがあった場合は、その都度検討するよう心掛けている。	自立者が多いが、排泄チェック表や利用者の様子(そわそわ感)から排泄のタイミングを計り声掛けし、トイレに誘導している。プライドを損なわないように気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の改善・予防を心掛け、定期的な運動・水分摂取などに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定表はなく、希望時に入居者様の体調をみながら実施している。	毎日朝から16時まで入浴支援をしている。1週間に2回の入浴を目安としているが、温泉を引いた施設なので、入浴好きな利用者や希望があれば連日でも入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるよう、本人様の使い慣れた寝具の持ち込みも可能にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一同で内服薬情報を共有し、変更があった場合は申し送りや状態把握ノートに記入することで全員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や面会時に聞いた情報を元に、その方に合った時間を過ごしてもらえるような援助をするよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望があれば、希望に沿って付き添うようにしている。また、外出する際は家族の方と連携を取り、外食や自宅によって来るなど希望に沿って外出ができるような支援をしている。	日常的には、散歩を希望する利用者には外に出られるよう付添っている。また、最寄りの道の駅に買い物に行くこともある。受診後、家族の協力を得て外食や自宅に寄って来る利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出で買い物へ行く際は可能な限りスタッフが見守りながら会計を行っている。また、毎週来所する移動販売のパン屋の買い物の際には入居者様と一緒に会計をするように心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より希望がある際には、家族様とも相談し希望に沿って控えている電話番号にかけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天窗より自然の光が入るようにし、一人一人のスペースが広くゆったりと過ごせるようにしています。また入居者様と作成した季節の壁面や作品を飾ったり、春夏には一緒に取った庭先の草花を飾ったりしている。	共用空間にある食卓は3ヶ所に配置され、車いすから椅子に移譲し、利用者がそれぞれ居心地よく過ごせる席に付いている。トイレには「かわや」と貼紙があり、利用者が理解できる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では気の合う入居者様同士で同じテーブルの席にしたり、だれでも座れるベンチを設置して気持ちよく過ごせるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入の際は、使い慣れた寝具・家具・食器などの持ち込みが可能なことを話している。また家族の家族の写真や、ペットの写真を貼り、過ごしやすい居室になるよう心掛けている。	ベッドと棚が作り付けで衣類は持ち込んだケース等に収納しており、入浴の用意も自分でできるよう工夫している。夏用に扇風機を壁面に設置し、床暖房を完備する等、環境に対応した居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人一人の残存機能を理解し共有し、それを踏まえて個々に合ったケアを行うようにしている。		